

新しく改訂した 日本飼養標準・乳牛（2017年版）

家畜・家禽の日本飼養標準は、家畜等の成長過程や生産量等に応じた適正な養分要求量を示したものであり、わが国における家畜飼養の基礎となるものです。日本飼養標準・乳牛（2006年版）が公表されてから11年が経過し、家畜栄養学に関する研究の進展、飼養管理技術の進歩、飼料を取り巻く情勢等が変化し、従来の飼養標準に修正や補足すべき部分が生じていました。そこで、わが国における現在の酪農情勢に即するため、日本飼養標準・乳牛を改訂し、2017年版として公表しました。

☆ 技術の概要

1. 初産牛の泌乳初期における乾物摂取量推定のための補正式を見直しました（図1）。子牛の離乳前のカーフスターターの摂取量、および離乳後から3ヶ月齢までの乾物摂取量の推定式を新たに導入しました（図2）。これらは飼料設計時の飼料栄養濃度を決定する際の参考となります。
2. 乳牛での利用も高まっている飼料用米やイアコーン、そして高糖分高消化性のイネ発酵粗飼料など、国内飼料資源の利用技術に関する解説を充実させました。また、泌乳量増加に応じた高エネルギー飼料給与時のルーメン発酵に関する情報や、泌乳曲線の平準化の考え方による泌乳持続性の改良、乳牛の長命連産性、生涯生産性向上などの解説も新たに加えました。
3. 日本飼養標準・乳牛（2017年版）には、Windows7、8および10（64ビット、32ビット）で利用可能な養分要求量プログラム、飼料診断プログラムをCD-ROMで添付しました（写真）。

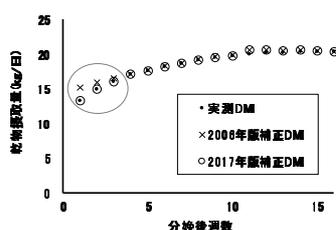


図1. 初産牛の泌乳初期における乾物摂取量の実測値、2006年版推定値、2017年版推定値

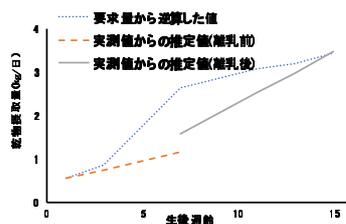


図2. 離乳前後の子牛の乾物摂取量の推定値(6週齢離乳の場合)



写真. 日本飼養標準・乳牛(2017年版)と添付のCD-ROM

☆ 活用面での留意点

1. 本飼養標準・乳牛（2017年版）は、公益社団法人中央畜産会から定価 3,500 円（+税）で販売されています。
2. 詳細については、農研機構お問い合わせフォーム（<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>）にお問い合わせください。